

民間委託の視点・考え方について

視点・考え方	第1回検討会におけるご意見	検討
【民間事業者の裁量の範囲について】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ サービス内容や料金体系に枷をはめてしまうのは問題。</li> <li>○ 展示・体験事業はしごと館の施設が必要だが、その他のサービスについては、必要ないのではないか。</li> <li>○ 修学旅行の目的地にするためには、「是非、しごと館に行きたい」と思わせる魅力あるサービスを検討することが必要である。</li> <li>○ 1回だけの体験で職業意識の形成を図るのは困難であるため、継続的な取組を考える必要がある。</li> <li>○ 中堅技術者の仕事の重要性を組み込むべき。</li> <li>○ 企業の社会貢献として、企業名がもっと露出しても良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 従来しごと館は、 <ul style="list-style-type: none"> <li>①職業体験事業</li> <li>②展示事業、</li> <li>③ライブラリィ事業、</li> <li>④相談・援助事業、</li> <li>⑤研修・セミナー事業</li> </ul>                     をワンストップサービスで提供してきたが、包括的民間委託にあたり、これをどうすべきか。                 </li> <li>○ キャリア教育施設として必要なサービスの内容をどのように考えるか。</li> </ul>
【収支についてどう考えるか】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パブリックサービスは必要だが、しごと館については、収支に10倍も開きがあり、これだとやはり議論は必要ということになるのだろう。</li> <li>○ もともと採算が取れないサービスだから公的機関がやってもいいという話が前に進まない。</li> <li>○ 人件費だけでなく、事業費が莫大。事業を縮小せざるをえないだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 民間事業者に期待すべき収支改善のための創意工夫のポイント</li> <li>○ 収支の現状と分析</li> <li>○ 収支についての考え方の方向性</li> </ul>
【委託期間をどのように設定すべきか】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 短期の委託期間で受託してくれる民間事業者はいないのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 民間事業者の創意工夫をいかしてサービスの質の維持向上及び経費削減を実現するため、民間事業者が経験を蓄積・分析し、軌道修正のプロセスを踏んだり、設備やスキル構築への投資を行うことができるような期間を設定すべきではないか。</li> <li>○ 具体的な期間について検討。</li> </ul>
【関係機関等のバックアップについて】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ しごと館の立地から集客能力に限界がある。民間委託後、どの程度民間事業者をバックアップするのか考えるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ しごと館事業が厚生労働省の施策に基づく雇用・能力開発機構の事業であることは、包括的民間委託移行後も変わりはないので、従来から行ってきた厚生労働省、雇用・能力開発機構、関係団体等によるバックアップは継続すべきではないか。</li> <li>○ それ以外に必要なバックアップはあるか。</li> </ul>
【目標設定の考え方】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市場にどれだけニーズがあるのか、また、しごと館のキャパシティにどれだけ余裕があるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な目標について検討。</li> </ul>
【包括的民間委託結果の外部評価について、評価をどのように行うか】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特段のご意見なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本年末までに行う評価においては、どのように評価を行うべきか。</li> </ul>